





今日の鉄道下車駅は小田急線「秦野駅」



駅前から平塚行のバスに乗車、20分程で南平橋に着く（大槻団地経由は通らない）



バス停には関東ふれあいの道案内板と、道標が整備されている



健速神社への道は、田圃の畦道に付けられた農道を行く、稲穂が膨らんで来た



「健速神社」祭神：須佐之男命、永禄二年（1532）の棟札を持つ、大槻集落の鎮守様  
江戸時代には牛頭天王社と云う、明治に入って現在の名となった。



朱塗りの本堂は寛永13年（1636）造立で、一間社流造り（市文化財）



本堂の裏手から社を出ると、東名高速道路にぶつかるから、峰の上陸橋で越える



大槻団地方面のバス道路に出る、道標に従い西に向かって歩く



5分程歩くと、山に向かう分れ道に出会うから、道標を見落とさないように右折する。



この辺りの角も分かりにくいから、注意が必要だ。道標はお墓の入口の先にある。



とにかく白山神社を目標にして歩くと良い、ふれあいの道は神社の横を通る



やがて尾根の頂上に出ると、権現山への登りに取りつく



「権現山 (243m)」南側の眺望は素晴らしい、富士・箱根が良く見える。展望台が素敵なデザインだね。



秦野、渋沢の市街と丹沢と富士



西は大山 (1252m) が良く見える



6月には見事な紫陽花であったが、盛夏の今きれいに刈り込まれていた



山を下りると馬場道となり「⑩弘法大師と丹沢へのみち」は、



弘法山への途中で左に折れて蓑毛方面へ下る



道はさらに下って、加茂神社経由で町中に出るが、暑いので山麓を直進する



涼しくて気持ち良いトレイルが、秦野国際乗馬クラブ方面に導いてくれる



馬たちもこの暑さに参ったか、水を掛けてもらっていた



町に出ると加茂神社方向からの道を合して、名古木（ながぬき）の交差点に向かう



「名古木交差点」 国道246号線と箕毛方面への大山道と合し、JT 研究所前で左折する



光明院（天台宗）のお寺を巡りながら急坂を上り、療養所のあるバス道に出る。



バス通りに出ると、舗装道路の照り返しで強烈な暑さだ、大山と路傍の草花にホッとする



東小学校前になると、波多野城址への案内があるから、訪ねてみよう



「波多野城址」 平安時代から鎌倉時代にかけて、相模国波多野荘を本領とした豪族波多野氏の居城。五代義通は保元の乱で源義朝に属して戦死、六代義常は頼朝の御家人となる。



その後、波多野氏一族は丹波国に所領を得て移ったという。七回に及ぶ発掘調査でも、城跡を証明する痕跡が発見されていない。



「源実朝の墓」波多野城址から西へ1.5kmの所に在る。建保六年（1218）27歳で鎌倉幕府三代将軍右大臣となる。1月27日鶴岡八幡宮で拝賀を終えた夜、源頼家の子公暁により暗殺される。即日公暁は三浦義村の家臣長尾定景によって成敗された。首は見つからず、亡骸は勝長寿院に葬られた。



公暁が持ち去った首は、義村の家臣武常晴が拾い上げ、波多野氏を頼ってこの地に葬ったという。当時の木製の五輪塔は鎌倉国宝館にある。

愚管抄によれば、首は雪の中から見つかったと記す（当日積雪は2尺程積もる）

[吾妻鏡第廿四・建保七年正月によれば、阿闍梨（公暁）かの御首を持ち、後見備阿闍梨が雪下北谷の宅に向かわる、膳を進むる間、なお手を御首より放たずと云々]



指定当時の源実朝公御首塚の様子

母政子はこの時、何処で何をしていたのだろうか。この日北条の動向について義時は、[右京兆（義時）にわかに心神異例の事あり、御剣を仲章亞尊に譲りて 退去したまひ・・・小町の御亭に帰らしめたまふ]（吾妻鏡第廿四）



さて箕毛への道を急ごう。箕毛郷に入ると、阿夫利神社の石鳥居が大山道に架かる



自然観察の森の前では、水車が回る



箕毛バス停に到着、これより大山へは川沿いに右折する。今日のゴールは、大日堂でもあるので訪ねてみよう。



「大日堂山門」宝蓮寺の大日堂、本尊：大日如来 大山参道の入口に有り、鎌倉建長寺の末寺で臨済宗、



開山は仏国応供広濟国師 山岳信仰の霊場 寺は天平 14 年（742）聖武天皇勅願所として造営された



今日のゴールは箕毛バス停。 23,800 歩 17.7 k mであった

[参考コースタイム]秦野駅（8：07）→南平橋（8：20）→健速神社（8：30）→白山神社（9：10-9：15）→権現山（9：35-9：45）→名古屋木（10：40-10：50）→波多野城址→東公民館（12：00-13：00 実朝の墓往復・昼食）→箕毛バス停（13：45）

この項完

関東ふれあいの道を歩く（16）神奈川（⑩大山参り箕毛のみち）に続く